

事業所防災リーダー通信2024 Vol.2

事業所防災リーダーに向けて、防災知識や防災に関するお知らせ等を定期的に発信します。



従業員の救護

平時はもちろん災害時にも、企業には従業員の安全確保に努めることが求められます。

ケガ人が出たときに救護にあたることができるよう、AEDや応急救護の研修、訓練を行い備えておくといいでしょう。また、ケガ人の搬送方法や災害発生時の搬送先についても確認しておきましょう。

応急救護の手順

倒れている人を発見した際の応急救護の流れを紹介します。

119番通報の際に救急隊員等からアドバイスがある場合は、その指示に従ってください。

1 倒れている人に呼びかける

意識の有無を確認するため、肩をやさしく叩きながら大声で呼びかけます。反応がなかった場合や判断に迷う場合は、周囲に大声で応援を求め、119番通報とAED搬送を依頼しましょう。

2 呼吸の確認

次に呼吸の有無を確認するため、倒れている人の胸とお腹の動きを見ます。10秒以内で確認して普段通りの呼吸がない場合や判断に迷う場合は、すぐに胸骨圧迫を行います。

4 AED装着と操作

AEDが到着したらまずは電源を入れ、音声ガイダンスに従って操作してください。普段通りの呼吸になるまで続け、救急隊が到着したら操作を引き継いでください。

3 胸骨圧迫

手のひらの付け根を重ねて組み、両手を胸の中央に置き、成人の場合、胸が5cm沈むまでしっかりと圧迫します。まずは30回、1分間に100~120回のテンポで行います。『アンパンマンのマーチ』と同じテンポで絶え間なく行うのがよいとされています。

人工呼吸の方法を訓練しており、人工呼吸用マウスピース等がある場合は、胸骨圧迫30回と人工呼吸2回を繰り返し行います。

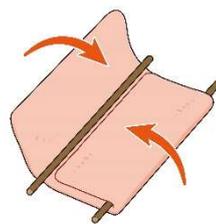
条件を満たせない場合は胸骨圧迫のみを続け、適度に意識が戻らないか呼びかけを行ってください。

けが人を搬送する



・イス

背もたれがあってローラーが付いているイスは、担架の代用品としてケガ人の運搬に利用できます。二人以上でイスの前後や左右に付いて運びましょう。



・毛布と丈夫な棒

担架の代用品を作ることができます。

横に広げた毛布の3分の1のところに棒を置き、棒に被せるように毛布を折り返します。折り返した毛布の端が毛布の3分の2のところにあたります。ここにもう1本の棒を置き、残りの毛布を折り返します。

東京消防庁からのお知らせ



東京消防庁では、毎月、季節やそのときどきで問題になる防災にまつわる事柄をテーマに情報発信をしています。

今月は「地震に備えて -いま 一人ひとりにできること!!-」をピックアップしています。是非ご覧ください！

東京消防庁HP https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/lfe/bou_topic/jisin/life00.html